

ず、卒業生はコンピュータ関係、I E、Q C、生産管理などの技術者、セールスエンジニアなどとして、全国各地で活躍しています。

今後とも、カリキュラムの充実と教員スタッフの強化を図り、ユニークな学科づくりをめざしてまいります。

(甲斐 章人)

## 広島工業大学 経営工学科

広島工業大学は、広島市の西端の日本三景の1つである宮島が展望できるところに本拠を構えている。昭和41年に開設された経営工学科は、昭和61年10月末現在465名の学部学生と11名の専任教員とから構成されている。本学は目下大学院設置を具体的実現するというところで検討中であるが、今まで学部学生のみが対象であったということで、実践教育に多大の努力を傾注してきた経緯があり、現在のカリキュラムおよび専任教員の構成もそれを反映したような結果となっている。

現在のカリキュラムは昭和61年度から実施されているが、授業科目の構成は表1のとおりである。

この分類は多少便宜的であり、コース制を意味するものでもなく、学生指導において若干使用するのみである。このカリキュラムの特徴は、まず実験・演習の多いこと、専門教育における必須科目は卒業研究を含め42単位(選択79単位、自由10単位)とし、基礎的なものに限って、多様な学生の能力と関心に対応できるようにしたことであろう。しかし、当経営工学科での教育の特徴は、科目そのものよりもその内容および指導方法にある。基本概念と基礎の重視、問題の発見と解決のためのアプローチ、企業の実態などは、教育の上で多くの教員が注力するところで、授業の教材で工夫するのみならず、企業実習、会社見学、論議(合宿研究会)、実態調査

などが、卒業研究を通じて各教員の指導のもとで盛んに行なわれている。その他今回のカリキュラム改正の特徴として、若干ながらシステム・情報関連授業科目の増加とソフト化傾向とが指摘できよう。

また、本学は講座制ではなく担当授業科目制とでもいべき状況にあって、各教員の教育・研究の自由が尊重されるようになってきているが、それはある意味で個人の負担が大きくなる傾向を伴っているともいえよう。特に学部学生のみを対象としての多人数教育において、教育(場合によっては大学運営に関する業務も含め)と研究の両立は多くの教員の課題ないし悩みでもある。それに加えて、経営工学関連の領域では“たちの悪い問題”ないし“良構造でない問題”が多く、研究の内容と現実世界との乖離を起ささないようにすることも課題であろう。このような状況で本学の教員は必ずしもOR学会で直接活躍していないが、各教員は皆、問題解決の科学的方法であるORとはなんらかの関連で教育研究において取り組んでいるのが現実である。蛇足ながら私も浅学非才を顧みず、目下自律の人間を含んだシステムのよりよい理解と設計および実践の基礎となる理論の構築と方法論の研究を志す1人である。

なお、現在の専任教員の教育・研究における指導の内容は表2に示すようになっている。(久保田洋志)

表1 授業科目

( )の数値は単位数

工学基礎	応用数学(6)、物理学実験(1)、基礎電気回路(2)、計算機演習(2)
共 通	経営工学概論(4)、経営工学基礎実験(4)、経営工学総合演習(2)
生産工学	生産工学(8)、人間工学(4)、生産工学実験(1)、計測工学(2)、I E(8)、工業標準化(2)、工程管理(4)、工場管理(3)、I E生産管理演習(2)
システム・情報	システム工学(2)、システムズアプローチ(2)、システム制御理論(4)、システム制御演習(2)、計算機工学(2)、情報処理(8)、ソフトウェア工学(2)、会計情報論(4)、情報処理演習(2)
経営管理	原価計算(2)、品質管理(6)、品質管理演習(1)、労務管理(6)、販売管理(2)、購買管理(2)
経営科学	数理統計学(4)、OR(4)、OR演習(1)、経済性工学(2)
関 連	文献ゼミナール(1)、特別講義(2)、卒業研究(5)
他 学 科	電子工学概論(2)、デジタル回路(2)、通信工学(2)、機構学(2)、工作機械(2)